

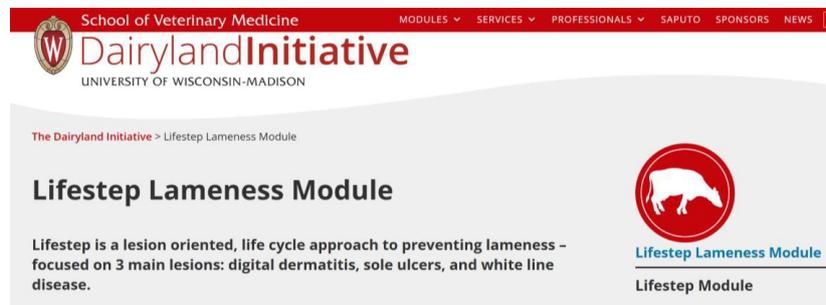
蹄浴の頻度

こんにちは。以前、農家さんから蹄浴の頻度に関してご質問をいただき、少し調べてみましたのでここにも書かせていただこうと思います。

「もうすぐ寒くなり、蹄浴が実施しにくくなっていくのに今更かよ」。と思われる方もいらっしゃると思いますが、ご容赦ください。

アメリカのウィスコンシン大学のサイトである、The Dairyland Initiative によりますと、効果が実証されていて、皮膚の防御機能を損なわない抗菌剤を使用した、週4日の運用が推奨されています。

ただ回数だけを増やせばよいというわけでもなく、皮膚への負担など（pHを3以上に保つ）も考慮して、できるだけ実施頻度を減らすことが必要とも補足されています。



また、Effect of footbath protocols for prevention and treatment of digital dermatitis in dairy cattle: A systematic review and network meta analysis という、メタ解析（複数の研究結果を合わせて、統計的に解析する手法）を用いて DD の治療に関するデータを解析した論文によりますと、「少なくとも 4 回 週使用された 5 %硫酸銅のみが、DD の治療において、足浴なしおよび水プラセボよりも優れていた」。という結果でした。

[Meta-Analysis](#) > [Prev Vet Med. 2019 Mar 1;164:56-71. doi: 10.1016/j.prevetmed.2019.01.011.](#)
Epub 2019 Jan 28.

Effect of footbath protocols for prevention and treatment of digital dermatitis in dairy cattle: A systematic review and network meta-analysis

[C Jacobs](#)¹, [C Beninger](#)², [G S Hazlewood](#)³, [K Orsel](#)², [H W Barkema](#)⁴

Affiliations + expand

そして、カナダのグラスゴー大学の資料によりますと、ここでも、推奨される薬剤（5 %硫酸銅等）を用いて、①週に4回程度（連続して4日、一日2回を週二日等で実施）②足のよごれが score 3もしくは4、または DD 罹患率が牛群の 20 %以上の場合はそれ以上で DD の罹患率が 10 %以下の場合には頻度を減らすことを推奨しています。



列挙した3つの参考文献の内容は多少なりとも違えど、「週4回以上の実施が効果的である」。という内容は共通しています。環境負荷のこともあり、硫酸銅を使用するのに抵抗がある方も多いとは思いますが。

まずは、現在牛群にどれだけのDD罹患牛がいるのかを把握したうえで、1か月間、週4日の頻度で蹄浴を実施。その結果を見て、実施頻度や使用薬剤を変更してみるという方法がよいのではないのでしょうか。

また、阿部vetの意見になりますが、はっきりとした病変があるような牛は、蹄浴を通すよりはむしろ、個体治療を優先させるべきだということです。また、硫酸銅は皮膚刺激性が非常に強いので、5%の濃度は守ってください。そして、最後に削蹄師さんは多くの蹄病のモニターしてくれています。削蹄時の状況を確認していただき、それをもとに獣医へ相談していただくのが良いと思います。

皆様の参考になれば幸いです。

望月